

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-77

学校名・団体名	東大阪市立意岐部中学校
HPアドレス	<a href="http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/okibe-j/">http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/okibe-j/</a>
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	子どもの成長を促す キャリアカウンセリングの研究
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「自分の夢・生き方を創りつづける子」の育成に向け、すべての教育活動の中で、キャリア教育の視点をもって、子どもたちに自分の夢や生き方をつくっていく力を育めるよう取り組んでいる。子どものレジリエンスを高め、キャリア発達を促すために、キャリアカウンセリングの手法を活用し、子ども一人ひとりの変容を把握するとともに、子どもの内面・背景に思いをはせ、子ども自身が自分の課題や成長面に気づくように働きかけていく。</p>	

<活動・研究報告> (時期、内容、成果や子どもたちへの効果などを記入。A4用紙1~2枚でおまとめください。)

●活動時期および内容		教職員研修・連携会議	地域連携
月	とりくみ・校種間連携(校種)		
4	4/15,16 移動教室(中)	4/5 新転任者研修 4/12 四校園連携運営会議 4/27 四校園合同学習会	4/27 地域教育協議会
5	5/12~15 修学旅行(中) 5/13 幼小交流(幼小)	5/26 四校園連携運営会議	
6	6/1~3 職業体験(中) 6月 地域学習(中) 職業体験(小) 6/27,30 幼小交流(幼小)	6/27 四校園連携運営会議	6/23 四校園 PTA 合同学習会
7	7/1 職業体験小中交流会(小中) 7/5 高校体験授業(中高) 7/11 幼小交流 7/12 地域学習報告会(中) 7/13 小6 交流(小小) 7/15 進路の集い(中) 7/17 地域清掃(地域・小・中)	7/22 四校園合同学習会	7/14 地域教育協議会
8	8/5 幼中平和学習交流会(幼中)	夏季研修(各校)	
9	9/18 運動会[幼中合同演技](幼中) 9/12 幼小平和交流	9/9 四校園連携運営会議	
10	10/15 共同募金活動(地域・小・中) 10/25~27 保育実習(幼小) 10/26 意岐部中学校公開研究発表会	10/4 教職員研修 10/20 四校園連携運営会議	10/7 地域教育協議会
11	11/12 意岐部フィエスタ [夢づくり体験講座](小小) 11/16 小中合同学習会(小中) 11/21 幼小交流(幼小) 11/22 小小合同観劇(小小) 11/28 保育実習(幼中)	11/28 四校園連携運営会議	11/12 意岐部フィエスタ
12		12/22 四校園合同学習会	12/8 地域教育協議会
1	1/26 意岐部東小学校公開研究発表	1/23 四校園連携運営会議	
2	2月 自分史(中) 2/7 給食交流(幼小) 2/14 プラネタのタベ(幼・小・中・地域)	2/9 教職員研修	2/23 地域教育協議会
3	3月 職業調べ学習(中) 3/22 職業講話(中)	3/2 四校園連携運営会議	

●活動の特色

- キャリアカウンセリング…子どもにキャリア発達(主体的に判断できる力など)を促す関わり
  - ・効果測定(夢づくりアンケート)を実施し、「3領域10視点」の項目にそって、個人の結果をグラフ化し、子ども、保護者と共有して、話をした。
  - ・グラフ化した結果を参考に、教職員が子ども一人ひとりの変容を把握し、声かけにつなげた。
- 「子育て協力隊」…学校の教育活動に参加、協力いただく地域人材・保護者の総称
  - ・学校行事や日々の教育活動に、保護者・地域の方にも参加、協力していただき、いっしょに行事をつくりあげている。保護者・地域の方と子どもとの交流の機会としている。
- 意岐部フィエスタ…中学校区全体で子どもの成長を見守ることを目的とした地域行事
  - ・夢づくり体験講座として、地域のものづくり事業所の方からもものづくりの体験講座を実施。その際、2つの小学校の児童を合同にした形で実施。
  - ・地域の方が出店する模擬店に、中学1年生が販売体験ボランティアとして参加。
  - ・子育て協力隊として、さまざまな地域の方、保護者が子どもと関わり、子どもたちに励ましや称賛の声をかけてもらうことができた。
- 校種間交流…異年齢交流 報告・交流会を実施(幼中、幼小、小小、小中、中高)

●成果

- 教職員が、子ども一人ひとりの内面の変容・背景に思いをはせ、声かけにつなげることができた。
- 日常のかかわりにおいて、「子どもに気づかせる」ことを意識して、子どもに声をかけ、子どもの言葉をうけとめていく。そうすることが、日常の子どもたちの活動の中に、「語る」「語らせる」「語り合わせる」のサイクルを生み出し、子ども自身が、自分の課題や成長に気づき、主体的に考え、行動していくこと(キャリア発達)につながると確認できた。
- 仮説をたて、キャリアカウンセリングにとりくんだことを検証できるようにした。
  - 仮説①子どもと話す回数・時間が増える【気づきから子どもの思いをうけとめる】
    - ②授業中、前向きな発言や態度が増える【「思いを聞いてもらえること」、「先生にあてにされること」からくる変化】
    - ③人を傷つける言葉が減る【「周囲から認めてもらえること」、「判断する力がつくこと」からくる変化】
  - 仮説の検証方法…各校で実施するアンケートに、共通項目を設けて、検証。
- より効果的な教育活動のために、PDCAサイクルを構築し、教育活動・とりくみを検証する機会となった。
  - ・「3領域10視点」をもとに、子どもにどのような力がついたか、子どもがとりくみをどのようにうけとめたかをとらえ、夢づくりアンケートの結果もふまえて、とりくみを振り返り、改善点を考える機会となった。
- 「3領域10視点」をもとにした、中学校区で子どもの成長を見る視点の統一に向けて、とりくむことができた。
  - ・夢づくりアンケートの結果を、保護者とともに、子どもの変容について話すきっかけとなった。
  - ・中学校区のとりにくみを保護者・地域に周知するために、リーフレットを作成。新年度4月以降配布予定。